

What's New From ASCIKU

関西大学科学技術振興会 No.16 February 2009

第8回研究会を開催 2月28日(土)

今年度における最終の開催となる研究会プログラムは、昨年8月に開催されたタイ・日本国際シンポジウム「物質工学と環境工学の新しい展開」に参加の大学院生からの報告、新シリーズ「新技術・新製品紹介」、当会の寄附講座開講の報告、産学連携の取り組み報告、および当会の活動報告です。

紀和 隆副会長からの開会挨拶、内山寛信機構長からの挨拶のあと研究会に移り、今年度から参加の呼びかけを始めた大学院生を含め、51名の出席でした。

1. タイ・日本国際シンポジウム参加の大学院生から報告



田村 裕 化学生命工学部長

タイ・チュラロンコン大学石油・石油化学工学科の創立20周年と本学工学部創立50周年を記念して、タイ・日本国際シンポジウム「物質工学と環境工学の新しい展開」が、平成20年8月19日、20日、チュラロンコン大学で開催されました。

同シンポジウムの本学の実行委員長である田村 裕 化学生命工学部長から、当会の後援および会員の参加に対する

感謝が述べられました。さらに本学大学院生15名の参加に支援して戴いた、大阪冶金興業株式会社にお礼が述べられました。

引き続き、同シンポジウム参加の大学院生の内、3名から参加した感想とポスターセッションの内容の発表がありました。



長濱 英昭氏

(1) 「究極のバイオマス キチン・キトサン」

環境機能化学研究室 長濱 英昭氏 (指導教員・田村 裕 先生)



藤浦佳奈恵氏

(2) 「生分解性温度応答ゾルゲル転移ポリマーの合成とバイオマテリアルとしての評価」

機能性高分子研究室 藤浦佳奈恵氏 (指導教員・大矢 裕一先生)

(3) 「ペルヒドロポリシラザンをシリカ源とするスピロピラノープシリカ薄膜の作製とフォトクロミック特性」

セラミック工学研究室 山野 晃裕氏 (指導教員・幸塚 広光先生)



山野 晃裕氏

両大学の大学院生によるポスターセッションは、研究内容などを伝えることに悪戦苦闘した模様ですが、異文化交流を通じて自分の思考軸に新しい価値観を加えたようです。

2. 新技術・新製品紹介 (会員外企業から発表の新コーナー第2弾)

「3次元リアルタイム・バーチャルリアリティ UC-win/Road」

株式会社フォーラムエイト 営業担当取締役 武井 千雅子氏

3次元のバーチャル・リアリティ (VR、仮想現実) を簡単なPC操作で作製出来、多様なリアル



武井千賀子氏

タイム・プレゼンテーションが行えるソフトウェアについて、建築、都市計画、土木、交通分野におけるVRプレゼンテーションの活用事例が判り易く説明されました。

動きのある3次元VRシミュレーションは、エンジニアやプレゼンターを支援する強力な合意形成ツールとして色々な分野で有効に活用されていることを理解する機会になりました。

3. 科学技術振興会 寄附講座「ものづくりの現場から基盤技術を学ぶ」(全14回開講)の報告

産学官連携コーディネーター 田中久仁雄

理工系初の寄附講座は、会員企業5社をはじめ製造業を担う14社のものづくり企業(加工メーカー7社、材料メーカー3社、装置メーカー4社)から講師を招聘して、大学院工学研究科・平成20年度秋学期の特別講義として実施されました。

ものづくりの哲学、理念を自らの言葉で熱く語られ、作られてしまうものではない、作らされてしまうものでもなく、確かに作っている企業の存在感が示されました。

4. 2008年(平成20年)度 産学連携活動、関西大学の取り組み

産学官連携コーディネーター 田中久仁雄

技術相談から研究コンソーシアムまで広がる多様な産学官の連携、交流を着実に推進しています。

最近の連携活動から、事業計画に沿って連携の展開、進化および拡大について事例を紹介されました。

連携の展開においては、土木・建設業界初の汎用的な3次元CADエンジンの開発を目指す「関西大学カイザープロジェクト」が1期4年間の予定で発足など、連携の進化においては、環境再生化学生産プロセスの構築を目指した「環境再生技術研究会」が先端科学技術推進機構に設立など、連携の拡大においては、「言いたい放題だったけれど、でも良かった」と企業から言ってもらえるような、十分に時間と回数かけた技術相談会「サテライト技術ギャラリー」をクリエイション・コア東大阪の関西大学産学連携オフィスに開設など。

一人ひとりのつながりを大切に、持続的な産学連携を目指し、事例のような多様な展開をしています。

5. 2008年(平成20年)度 科学技術振興会の活動報告

社会連携センター事務室 本多忠男

平成20年度の当会の活動テーマを「皆様とともに祝い、これからを考える工学部創立50周年—温故知新、新たな社会連携モデルの創造—」に設定し、今年度から理工系大学院生、学部生が参加した研究会を推進しました。

このテーマを元に、かつて工学部で教鞭をとっておられた4人の先生方から、往年の名講義を「復活迷? 講義」と称した講演をお願いし、4回(6月、9月、10月、12月)開催しました。

「復活迷? 講義」は、古い歴史的事実をしっかりと修復して新しい時代に対処する。そうすれば正しく理解できることをそれぞれ専門の研究分野について、「摩擦と磨耗」(下間頼一先生)、「Ti-Ni-Cu 3元素系状態図」(薬師寺正雄先生)、「天然アミノ多糖(キチン)」(戸倉清一先生)、および「電池とキャパシタ」(松田好晴先生)をテーマに語られました。

上記の4回の研究会では同時に、工学部校友による講演「校友が語る技術開発」をテーマに開催しました。常識にとらわれず、未知への挑戦を続ける企業の一つひとつのストーリーを通して、ものづくりの特徴、強みについて独自の目標意識があることを語られました。

さらに、当会の第2回海外研究会として、2008年8月19日、20日の2日間、チュラロンコン大学で、2006年に続いて開催されたタイ—日本国際シンポジウム「物質工学と環境工学の新しい展開」に参加しました。同シンポジウムは、チュラロンコン大学石油・石油化学工学研究科創立20周年と本学工学部創立50周年を記念して開催する合同シンポジウムです。当会は、会員企業から18名と企業紹介のパネル展示に10社が参加しました。本学から教員10名と今回初めて大学院生15名が参加しました。双方の大学から研究成果の発表と熱心な議論、現地ものづくり企業3社の見学、現地企業で活躍の校友の会「泰国千里会」の方々との歓談などを通じて、交流が着実に前進していることを実感しました。海外研究会の開催は、チュラロンコン大学との連携、現地企業との連携交流、校友を中心とした連携、交流など、タイをはじめASEAN諸国との国際的な連携、交流を目指したグローバルパートナーシップの形成の契機になりました。今後の展開に期待したいと思います。

以上、本学工学部創立50周年記念に関わる当会行事の報告を中心に、今年度の活動報告としました。その他の活動については、当会の機関誌「What's New From ASCIKU」No8~15をご覧ください。

振興会のホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/sinkokai/index.html>

関西大学 HP からサイト内検索で「振興会」を入力して下さい

ASCIKU 関西大学科学技術振興会

Associative Society for the Collaboration between Industries and Kansai University